

球に帰還する。中国の小型衛星は、フォボス探査機から分離後火星周辺環境の調査を行う。

宇宙開発の現状報告

(平成 19 年 3 月 28 日(水) ~ 平成 19 年 4 月 3 日(火))

平成 19 年 4 月 4 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発委員会の動き

3 月 30 日(金)

- 第 10 回宇宙開発委員会計画部会
【松尾委員長、青江委員、池上委員、野本委員、森尾委員】

宇宙開発に関する海外の動向

3 月 28 日(水)

- 中国とロシア、火星探査プログラムで協定締結 【中・露】
3 月 26 日(月)(現地時間)、中国国家航天局(CNSA)とロシア連邦宇宙局(FSA)は、火星探査ミッションに関する協力協定に署名した。この協力は 2009 年に打上げ予定のロシアの探査プログラム「フォボス・グルント(Fobos-Grunt)」に関するもので、同計画では、ロシアの火星探査機「フォボス(Fobos)」と中国の小型火星周回衛星が同時に打ち上げられる。火星探査機「フォボス」は、火星の衛星フォボスに着陸し土壌サンプルを採取して地

4 月 2 日(月)

- ロシア国家委員会、宇宙開発について議論 【露】
3 月 29 日(木)(現地時間)、ロシア大統領府国家委員会が開催され、ロシアの宇宙開発に関する議論が行われた。報道によると、同会議で触れられた主な案件は以下の通り。
 - 2006 年の地球観測衛星「レスルス DKI(Resurus-DKI)」の打上げ成功。
 - 航行測位システム「グロナス(Glonass)」について、2007 年末までに合計 18 機の衛星を配備し、2009 年に 24 機の衛星で運用を開始する。
 - 2009 年に火星探査プログラム「フォボス・グルント(Fobos-Grunt)」を実施。